

岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2012・2 vol.425

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉

救援物資、震災募金への御礼

この度の東日本大地震・大津波大災害に際しましては、多くの皆様から救援物資並びに募金をお寄せいただいています。皆様からの温かいご支援に対し心より御礼申し上げます。



みずき団子が飾られた「がん患者・家族サロン」

〈写真撮影：がん患者・家族サロン、1月18日(水) 関連記事P6〉

おもな内容

- 特 集 高度看護研修センターの紹介 — 認定看護師教育課程（緩和ケア分野）開講について —
高度看護研修センター 専任教員 長澤 昌子
- 寄 稿 最先端の研究紹介
- トピックス 平成23年度いわて高等教育コンソーシアム・シンポジウムが行われました
- フリーページ すこやかスポット医学講座 No.34 不整脈疾患について
内科学講座 心血管・腎・内分泌内科分野 准教授 小松 隆



高度看護研修センターの紹介

～認定看護師教育課程（緩和ケア分野）開講について～

高度看護研修センター 専任教員（緩和ケア認定看護師）

長 澤 昌 子

岩手医科大学附属病院は、専門性を備えた認定看護師の養成を目的として2011年7月に高度看護研修センターを設置しました。

高度看護研修センターでは、東北初となる「緩和ケア認定看護師教育課程」を2012年6月に開講し、8か月のカリキュラムにより緩和ケア分野の認定看護師を養成するための教育を行います。研修生は、5年以上の実務経験を積み、且つ緩和ケアを受ける患者さんご家族への看護実績をもった看護師が対象で、全国から募集します。

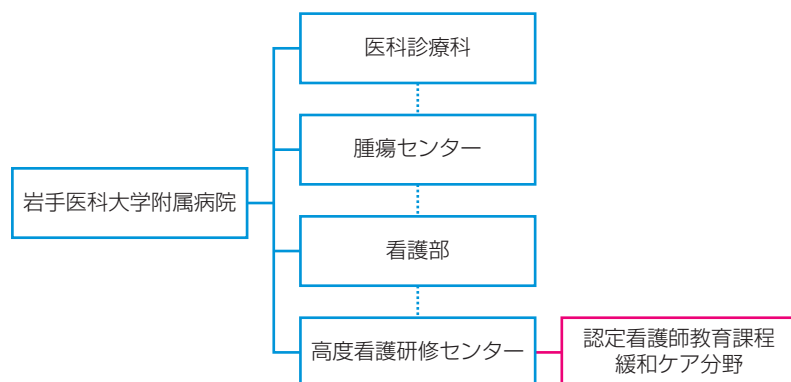
以下に、概要を紹介いたします。

◆ 高度看護研修センターの組織

当センターは、藤岡知昭センター長（副院長・腫瘍センター長・泌尿器科教授）、及川史智子副センター長（看護部長）のもと、石井真紀子主任教員と専任教員の長澤、および米澤希事務員により構成されており、1号館3階の看護管理室の隣にあります。

石井主任教員は、緩和ケア認定看護師教育課程を開設するにあたり、昨年9月から当院に着任しました。

■組織図（附属病院組織機構図より一部抜粋）

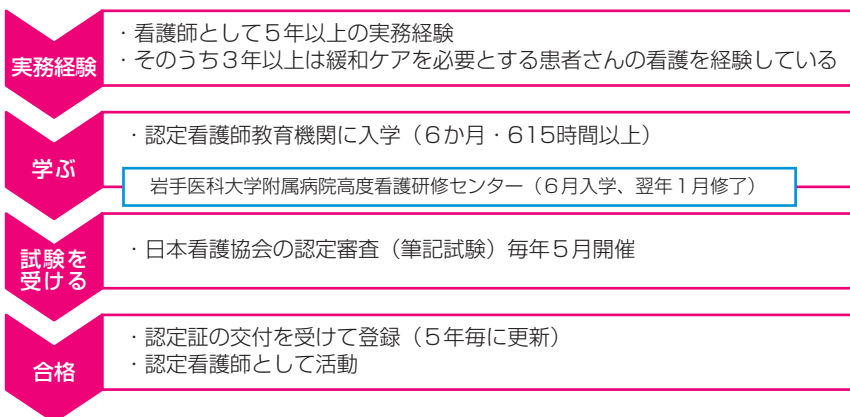


（左から）米澤事務員、長澤専任教員、藤岡センター長、及川副センター長、石井主任教員

◆ 認定看護師とは

認定看護師は、1995年に日本看護協会により創設された認定制度で、受験資格を満たした看護師が6か月以上の専門分野の教育を受けた後、認定審査に合格して得られる資格です。認定看護師は、緩和ケア分野をはじめ現在21分野あり、特定の看護分野で熟練した看護技術と知識を用いて患者さんご家族へのケアを行い、看護ケアの広がりや質の向上を図ることが期待されています。認定看護師登録者数は、2011年12月現在、全国で9,048人です。登録者には地域により差があり、関東甲信越地域に3,298人（36%）と多く、東北では540人（6%）、その内岩手県では15分野で76人という状況です。

■緩和ケア認定看護師 資格取得までのプロセス



◆緩和ケア認定看護師とは

緩和ケアとは、辛くないように病気と付き合う方法です。緩和ケア認定看護師とは、緩和ケアを受ける患者さんとご家族の支援に関する専門的な知識と技術を有し、現場の看護師の指導や相談を受ける役割を担っています。登録者数は、全国で1,100人ですが東北では60人（5%）と全体の比率と同様に少なく、岩手県では10人でほとんどが1施設に1人という状況です。

活動の場としては、一般的には緩和ケア病棟や一般病棟、訪問看護ステーションなどですが、県内では多くは緩和ケアチームの専従として配置されています。これは、がん診療連携拠点病院において緩和ケアチームの設置が求められており、専門的な知識や技術をもつ専従看護師の配置がその指定要件になっていることに関連しています。

また、2010年からは「がん患者カウンセリング料」が算定できるようになりました。緩和ケア認定看護師をはじめとしたがん看護分野の認定看護師が患者の意思決定に介入することで診療報酬でも評価されています。

がんを罹患する患者さんが増え、がん対策基本法に基づく様々な取り組みが進められる中、緩和ケアに対する取り組みは一般市民からの関心も高く、緩和ケアを専門とする看護師の存在は、患者さんにご家族からの期待も高まっています。

◆岩手医科大学附属病院高度看護研修センター 緩和ケア認定看護師教育課程とは

高度看護研修センターでは、地域のニーズを調査した結果、緩和ケア分野を開講することとしました。これは、がん対策により地域連携が推進される中、がん診療連携拠点病院以外の病院、在宅医療の現場においても緩和ケアを必要とする患者さんが多い現状が反映されていると思われます。

これまでの主な経過については以下の通りです。

- 2011年 7月：高度看護研修センター設置
- 8月：日本看護協会へ認定看護師教育機関の認定申請
- 2011年 11月：認定看護師教育機関として認定
 - ：研修生募集のための広報活動・研修生募集
 - ：第1回教員会、第1回入試委員会
- 2011年 12月：記者会見の実施
- 2012年 1月：願書締め切り
- 2月：選抜試験
- 6月：開講式



認定証



研修生募集ポスター

◆カリキュラムについて

■カリキュラム（総時間数664時間）

共通科目（150時間）	専門基礎科目（199時間）
・看護管理 ・リーダーシップ ・文献検索・文献講読 ・情報管理 ・看護倫理 ・指導	・症状緩和と援助技術 ・緩和ケアを受ける患者の心理過程とその支援技術 ・緩和ケアを受ける患者の家族への支援 ・緩和ケアにおけるチームアプローチ ・地域における緩和ケア
専門基礎科目（75時間）	専門基礎科目（240時間）
・緩和ケア総論 ・がんのプロセスとその治療 ・臨床倫理 ・緩和ケアにおけるストレスマネジメント	・実技演習 ・ケースセミナー ・臨地実習

教育課程のカリキュラムは、総時間数664時間で、講義および学内の演習・実習は内丸キャンパス内で行う予定です。講義には岩手医科大学の教職員の方々並びに外部からも緩和ケア分野で活躍されている先生方に非常勤講師を依頼し、全体で約60人の講師による大変充実した講義内容となっています。臨地実習は、緩和ケア病棟と訪問看護ステーションで行い、岩手県内の施設のみならず遠方では関西・東海地域まで出向いて行う予定です。

◆おわりに

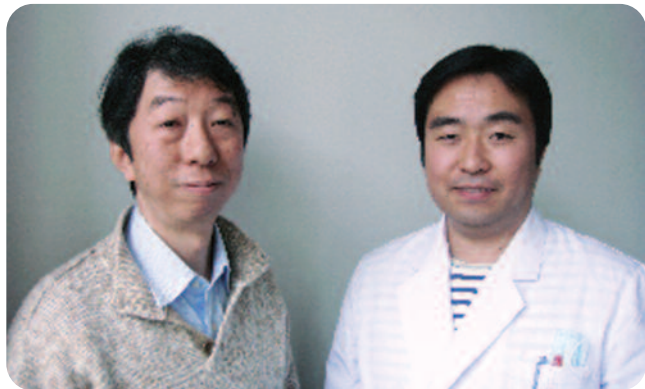
初年度ということもあり、不安な点もありますが、多くの先生方にご指導いただきながら、研修生とともに学ぶ姿勢で取り組んでいきたいと思ひます。どうぞご支援のほど、よろしくお願いいたします。

iPS 細胞から歯を構成する細胞を作り出すことに成功

(解剖学講座発生生物・再生医学分野)

解剖学講座発生生物・再生医学分野の原田英光教授（左）と先進歯科医療研究センターの大津圭史ポストドクター（右）らは、人工多能性幹細胞（iPS 細胞）から歯のもととなる細胞を作り出す方法を確認し、その成果を「Stem Cells and Development」誌に発表しました。（Differentiation of induced pluripotent stem cells into dental mesenchymal cells, in press）

iPS 細胞は皮膚などの体細胞に少数の遺伝子を導入



し、様々な細胞に分化する能力を獲得した細胞で、再生医療・創薬への応用が期待されています。今回の論文で大津ポストドクターらは、iPS 細胞が歯の象牙質を作る象牙芽細胞に分化することを世界で初めて示しました。この中で iPS 細胞は、何回かのステップに分け分化誘導を行うことで効率よく象牙芽細胞に分化することが明らかとなりました。また、この細胞はマウスに移植しても癌化しないことから、再生医療に用いる際の安全性も示唆されました。以上の研究成果は、岩手医科大学歯学部オープンリサーチプロジェクトの研究テーマより得られたものです。

iPS 細胞は患者さん自身の細胞から作ることができるため、今回の研究成果は、患者さん自身の細胞で歯を再生するという新たな歯科治療法の開発につながる可能性があります。今後は iPS 細胞から象牙芽細胞への分化の仕組みをさらに解明するとともに、iPS 細胞を使った新しい歯の再生法の開発が進められる予定です。

がん細胞の悪性化に関与する新しいパスウェイを発見

(薬学部薬物代謝動態学講座)

薬学部薬物代謝動態学講座の小澤正吾教授（左）と寺島潤助教（右）らは、がん細胞の悪性化に関与する新しいパスウェイを発見し、日本薬物代謝動態学会発行の国際学術誌「Drug Metabolism and Pharmacokinetics」に原著論文を発表し、この内容について 1 月に行われた国際シンポジウム「Past, Present and Future of Molecular Pharmacokinetics」でも発表しました。さらにこれらの研究内容については盛岡タイムス、岩手日報にも取り上げられました。

がん細胞塊が成長し、中央部の細胞が低酸素状態になると、がん細胞は血管を細胞塊内に形成し、さらなるがん細胞塊の成長、新しくできた血管を経由した他臓器への転移などの悪性化の原因となります。がん細胞塊中央部は低酸素のみでなく、低栄養状態でもあり、がん細胞の悪性化は低栄養でも誘導されることが考えられています。

今回の論文では、グルコース濃度の低下が誘導するがん悪性化の経路を明らかにしたものであり、薬物代



謝酵素の発現調節を行うアリルハイドロカーボン受容体（AhR）が低濃度グルコースに応答してがん細胞の悪性化を誘導することを示しました。生体外からの化合物に反応して薬物代謝をコントロールする AhR が、がん細胞のおかれている環境に反応し悪性化を誘導することを見出した研究はこれが初めてです。この研究はがん悪性化抑制を目的とした創薬につながる可能性があり、またがん進行に伴う薬物代謝能力の変動を知ることにより抗がん剤治療への大きな寄与が期待されます。

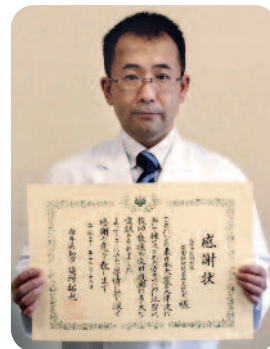
表彰の栄誉

岩手県知事から感謝状が贈呈されました

12月28日(水)、東日本大地震・大津波大災害発生直後から本学が行ってきた被災地への医師派遣支援活動について、その功績が称えられ、岩手県知事から感謝状が贈呈されました。

岩手県の基幹災害拠点病院に指定されている本学は、災害時における県内の医療体制をコントロールすることも重要な使命として担っています。

今回の大災害に際しても、避難所等への直接的な医療支援と並行して、小川学長の指揮の下、「災害時地域医療支援室」を設置（室長：肥田圭介外科学講座講師）（右写真）、壊滅的な被害を受けた沿岸部の拠点病院への長期的な医療支援ができる方々を募り、マッチングを行ってきました。これまでに国内外から多くのご支援をいただき、被災地の医療再生の大きな一助となっています。



本学附属病院元職員の岩間 千代子 さんが岩手県保健医療功労表彰を受賞しました



本学附属病院の元職員で、前栄養部栄養士長の岩間千代子さんは、長年にわたり保健医療に関する団体の運営に尽力し、その功績が顕著であったとして、平成23年度の岩手県保健医療功労表彰を受賞しました。

岩間さんは、本学附属病院で40年の長きにわたり栄養指導業務に精励され、栄養士長として患者給食及び栄養管理業務の充実に大きく尽力されました。また、岩手県病院栄養士協議会の監事も歴任されており、県内保健医療の発展に大きく貢献されました。

理事会報告

■12月定例（12月19日開催）

- 学長の選任について
次期学長：小川 彰（再任）
（任期：平成24年4月1日から平成28年3月31日まで）
- 教育職員の人事について
医学部麻酔学講座 准教授 永田 博文（前講師）
（発令年月日 平成24年1月1日付）
- 寄附講座の設置及び教育研究組織機構図の一部改正について
＜改正内容＞
医学部の寄附講座として、災害・地域精神医学講座を設置
＜改正目的＞
東日本大地震・大津波大災害後における精神疾患や精神的問題に関する予防と早期発見、早期支援が可能となる体制構築に関する研究と人材育成を行い、岩手県の精神保健医療福祉の向上に寄与すること
（施行年月日 平成24年1月1日）
- 歯科診療科再編及び附属病院組織機構図の一部改正について
＜改正内容＞
歯学部改革プロジェクトの一環として、歯科診療科を統合再編

（改正後）

- 高度先進歯科
（保存系・補綴系）
- 口腔診断科
- 口腔総合診療科

＜改正目的＞

- 歯学部学生教育における診療参加型臨床実習の実現
- 臨床研修歯科医師の臨床の充実
- 高次医療機関として高度先進的診療の展開
- 医・歯連携専門外来及び特殊専門外来の充実

（施行年月日 平成24年4月1日）

- マルチメディア教育研究棟の整備について

＜基本計画＞

- 建 物 名 称：マルチメディア教育研究棟
建 設 予 定 地：矢巾キャンパスA敷地
建 物 規 模：地上4階/免震構造/延床面積約9,000㎡
建 物 用 途：(1) 地域復興と災害支援の拠点となる災害時地域医療支援教育センター
(2) 将来的なメディアセンター機能を併せ持った図書及び情報関連施設

竣 工 予 定：平成25年3月

概 算 経 費：約28億3千万円

平成24年度一般入学試験が実施されました



平成24年度の岩手医科大学一般入学試験は、平成24年1月18日(水)に医学部一般一次、1月27日(金)に歯学部一般前期・薬学部一般前期、1月27日(金)・1月28日(土)に医学部一般二次試験が行われました。

志願状況は、医学部一般が前年度比60人増の2,464人（倍率29.0倍）、歯学部一般前期が前年度比14人減の52人（倍率1.7倍）、薬学部一般前期が前年度比10人減の162人（倍率2.3倍）となりました。

なお、今後行われる入学試験は、次のとおりです。

医学部	学士編入学試験	
	一次試験	二次試験
試験日	平成24年3月5日(月)	平成24年3月15日(木)
合格発表日	平成24年3月9日(金)	平成24年3月21日(水)

歯学部	一般・推薦・編入学試験	
	中期	後期
試験日	平成24年3月2日(金)	平成24年3月24日(土)
合格発表日	平成24年3月6日(火)	平成24年3月26日(月)

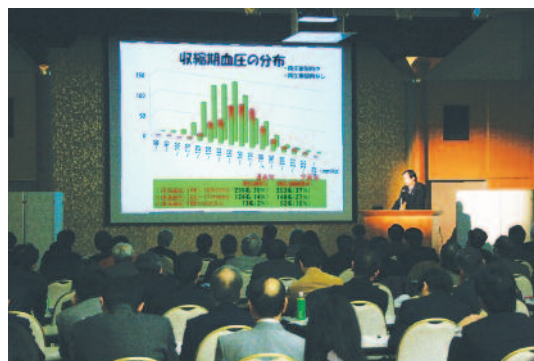
薬学部	一般・推薦入学試験	
	中期	後期
試験日	平成24年3月2日(金)	平成24年3月24日(土)
合格発表日	平成24年3月6日(火)	平成24年3月26日(月)

平成23年度いわて高等教育コンソーシアム・シンポジウムが行われました

2月4日(土)13:30より、エスポワールいわてにおいて「平成23年度いわて高等教育コンソーシアム・シンポジウム いわての復興—5大学の果たす役割とは—」が行われました。このシンポジウムは、県内各5大学（本学、岩手大学、岩手県立大学、盛岡大学、富士大学）が災害復興に向けて行っている復興活動を共有し、5大学が果たすべき役割を考えることを目的として行われたものです。

シンポジウムでは、岩手県知事による基調講演の後、各大学による復興活動報告・パネルディスカッションが行われ、本学を代表して災害医学講座の高橋智教授（写真右）が出席しました。

会場には多くの大学関係者や一般市民の皆様が来場し、災害復興に向けた様々な意見に耳を傾けていました。



本学による復興活動報告の様子

がん患者・家族サロンにみずき団子が飾られました



がん患者・家族サロンでは、1月中旬から岩手県の小正月行事であるみずき団子の飾りつけが行われ、赤・白・ピンク・黄・緑の色鮮やかな団子が福を願う飾りと共にサロン内を彩りました。

みずき団子は、毎年この時期になるとサロンスタッフの手により飾られており、今年は大学報の表紙写真のためにと例年よりも多くの団子を飾っていただきました。

ご協力いただいたサロンスタッフの皆様、誠にありがとうございました。

本号からの職場めぐりでは、平成23年4月の組織再編により発足した統合基礎講座を紹介していきます。

統合基礎講座は、理系学部の中では他に類を見ない学部横断的な講座組織です。現在は矢巾キャンパスへの移転も完了しており、学部を越えた連携による高度な教育・研究活動の展開が期待されます。

なお、統合基礎講座の詳細は、大学報第413号の特集記事（執筆者：小川学長）で紹介されていますので、ご参照ください。

統合基礎講座組織（平成23年4月1日施行）

解剖学講座	人体発生学分野	薬理学講座	情報伝達医学分野
	細胞生物学分野		病態制御学分野
	機能形態学分野	病理学講座	先進機能病理学分野
	発生生物・再生医学分野		病理病態学分野
生理学講座	神経生理学分野		分子診断病理学分野
	器官生理学分野		病態解析学分野
	病態生理学分野	衛生学・公衆衛生学講座	
生化学講座	分子遺伝学分野	法医学講座	
	細胞情報科学分野	医療工学講座	
微生物学講座	感染症学・免疫学分野		分野：旧医学部
	分子微生物学分野		分野：旧歯学部

解剖学講座（人体発生学分野）

解剖学というと暗いイメージを持たれがちですが、当講座のスタッフはそれぞれに個性が強く非常に面白いです。得意分野もそれぞれ異なるので、一つの事象について解剖学、形態学、発生学、分子生物学など様々な視点から議論できる点が当講座の強みだと思います。今年度からメンバーが増えて総勢11名になったのに加え、当講座の研究に興味を持った学生が教室に出入りし実験を行っているので、さらににぎやかになりました。研究テーマも、血管が光るトランスジェニック・ゼブラフィッシュやマウスを用いた脈管形成過程の形態学・分子生物学的解析をメインに、頸部脊髄神経の脊内配置と末梢分布の相関解析や脳血管診断マーカーの探索など多岐にわたり、これまでの定説を覆すような研究成果も挙げることができ

ています。ゼブラフィッシュや肺魚などなかなかお目にかかることの出来ない生き物もありますので、ご興味のある方はお気軽に当講座に遊びにいらしてください。

（ポスト・ドクター 齊藤 絵里奈）



看護部（東8階）

東8階は、耳、鼻、喉、頭頸部に疾患をもった患者さんが入院しています。入院患者さんの大半は、悪性腫瘍の患者さんです。治療は主に、手術、放射線療法・化学療法が行われています。不



安いっぱい入院してくる患者さんに対し、傾聴、共感の看護を大切にしながら、やさしさと思いやりをもって患者さんに接しています。

化学療法や放射線療法を受ける患者さんは、治療により口内炎や食欲不振などの有害事象が出現し、体調を崩すため早期から、がん放射線療法看護認定看護師が中心となり、患者さんの苦痛が最小限で済むような方法を検討し、治療が継続できるように援助しています。

また、今年度は、継続看護の充実を目的に病棟、外来による医師を含めた合同カンファレンスを開始しました。内容を充実させ、患者さんが満足できる看護を提供できるように今後も努力していきたいと思います。（看護師長 熊谷 ちえ）

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金

～ 皆様のご厚志により支えられています ～

平成21年6月から始めました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なご協力・ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は13回目の御芳名紹介です。(平成23年11月1日～平成23年12月31日)

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載しておりません。

個人等

<2,400,000円>

圭陵会三八支部

<1,000,000円>

山本 馨 (一般)

葛 但 寛 (医27)

金子 克 (名誉教授)

<御芳名のみ記載>

鈴木 一 幸 (教職員)

立 花 成 勝 (元教職員)

菊 島 一 仁 (父母)

阿 部 芳 則 (父母)

二 井 將 光 (教職員)

米 谷 則 美 (医30)

増 田 友 之 (教職員)

小 原 紀 彰 (医17)

(受付順、敬称略)

これまでの募金累計額

区 分	申込 件数	募金金額(円)
圭 陵 会	434	263,872,000
在 学 生 父 母	181	82,640,000
役員・名誉教授	38	67,810,000
教 職 員	107	15,445,000
在 学 生	1	100,000
一 般	96	290,982,922
合 計	857	720,849,922

(平成23年12月31日現在)

お知らせ

個人からの寄付に係る所得税の税額控除制度導入について

本法人に対する個人からの寄付金の税制上の優遇措置は、これまで「所得控除制度」が適用されていましたが、平成23年度の税制改正により、平成23年1月1日以降のご寄付に対して「税額控除制度」の適用が可能となりました。

このことにより、現在、「所得控除」と「税額控除」の2つの制度の適用が可能であり、どちらか一方の制度を寄付者の選択によりご利用いただくことになります。

なお、寄付の目的によっては本制度が適用されない場合がありますので、ご不明な点は企画部企画課 (TEL 019-651-5111 (内線7022・7023) FAX 019-624-1231 E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp) までお問い合わせください。

<税額控除額の算出式>

$$\left[\text{税額控除対象寄付金} (\ast 1) - 2,000 \text{ 円} \right] \times 40\% = \text{税額控除額} (\ast 2)$$

※1 寄付金支出額が、総所得金額等の40%に相当する金額を超える場合には、40%に相当する額が税額控除対象寄付金となります。

※2 控除対象額は、所得税額の25%を限度とします。

学 事 案 内

<平成23年度卒業式>

● 岩手医科大学

医学部、歯学部、大学院医学研究科・歯学研究科

日時：平成24年3月9日(金)午前10時

場所：岩手県民会館大ホール

● 岩手医科大学医療専門学校

歯科衛生学科、歯科技工学科

日時：平成24年3月8日(木)午前10時

場所：本学講堂 (歯学部棟4階)

<平成24年度入学式>

● 岩手医科大学

医学部、歯学部、薬学部、大学院医学研究科・歯学研究科

日時：平成24年4月5日(木)午前10時

場所：岩手県民会館大ホール

● 岩手医科大学医療専門学校

歯科衛生学科、歯科技工学科

日時：平成24年4月7日(土)午前10時

場所：本学講堂 (歯学部棟4階)

確定申告・還付申告のための税務相談のお知らせ

平成23年分の所得にかかる確定申告・還付申告のための税務相談会を下記のとおり開催します。

1. 相談員 税務担当顧問 田中 洋志 税理士
2. 日 時 3月1日(木) 9:30~11:30
13:45~16:00
3月2日(金) 9:30~11:30
3月5日(月) 9:30~11:30
13:45~16:00
3月6日(火) 9:30~11:30
13:45~16:00
3月7日(水) 9:30~11:30
3月8日(木) 9:30~11:30
3月9日(金) 9:30~11:30
3. 場 所 木の花会館3階 第1会議室

4. 連絡先 企画課(内) 7022・7023
経理課(内) 3214・3215

- 申告書は、企画課および経理課に用意しています。
- 申告書は、各自で必ずご記入くださるようお願いいたします。作成にあたっては、手引きや昨年の申告書の写しを参考にしてください。また、国税庁ホームページより申告書の作成ができますのでご利用ください。
- 相談の際は、添付書類、印鑑等も忘れずにお持ちください。
- 相談員1名で対応するため、希望する時間帯に相談が受けられない場合もあります。あらかじめご了承ください。

第94回大学報編集委員会

日 時：平成24年2月16日(木) 午後4時~午後5時

出席委員：山崎 健、松政 正俊、齋野 朝幸、藤本 康之、小山 薫、佐藤 仁、佐々木 光政、米澤 裕司、赤松 順子、佐々木 忠司、武藤 千恵子、野里 三津子、細川 幾恵

編集後記

平成18年豪雪以来の大雪と寒波が日本列島を襲い、全国各地で日常生活が脅かされる事態となっています。自然の猛威には太刀打ちできない人間の弱さを痛感すると共に、自分自身を守るためには何をすべきか考えさせられる出来事が続いています。大災害発生から間もなく1年が経過しようとしています、いま私達ができることを考え教職員間で情報を共有できる内容にしていきたいと思います。立春を迎えたとはいえ、岩手の寒さはまだ厳しく、雪との闘いもさらに続きそうです。油断せず雪の季節を乗り越えましょう。(編集委員 山尾 寿子)

岩手医科大学報 第425号

発行年月日 平成24年2月29日

編 集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111(内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@jiwate-med.ac.jp

印 刷 河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp

すこやか スポーツ医学講座 No. 34

内科学講座
心血管・腎・内分泌内科分野

准教授 小松 隆



不整脈疾患について

不整脈には脈拍が速くなる不整脈と脈拍が遅くなる不整脈とがあり、その発作時の心電図所見により臨床診断がなされます。脈拍が速くなる不整脈疾患（頻脈性不整脈）には、心房由来の上室性期外収縮、発作性上室性頻拍、心房粗動ならびに心房細動、心室由来の心室性期外収縮、心室頻拍ならびに心室細動に分類され、脈拍が遅くなる不整脈疾患（徐脈性不整脈）には、洞機能不全症候群、房室ブロックならびに徐脈性心房細動があげられます。

全ての不整脈疾患が治療の対象となるわけではなく、頻脈性不整脈における上室性期外収縮や心室性期外収縮は加齢とともに罹患頻度が多くなる不整脈であり、心機能が良好で基礎心疾患（虚血性心疾患、心弁膜症、心筋症など）を認めず、日常生活に支障のない場合には積極的な治療の対象にはなりません。一方、動悸発作、前胸部不快感、失神、全身倦怠感などの自覚症状が出現するその他の頻脈性不整脈では、薬物療法、高周波カテーテル心筋焼灼術や植え込み型除細動器移植術を考慮します。薬物療法には正常洞調律を維持する目的で抗不整脈薬が使用され、投与後の自覚症状や心電図所見を見ながら至適薬剤を選択します。また、発作性上室性頻拍や心房粗動（通常型）、基礎心疾患を有しない心室頻拍は高周波カテーテル心筋焼灼術により、当院でも年

間70～90例施行されており、90～98%の成功率で根治が可能な治療成績であることから、長期の薬物内服を希望しない場合は第一選択にもなります。しかし、心機能が不良で基礎心疾患があり、不整脈による突然死の可能性がある心室頻拍や心室細動では、薬物療法や高周波カテーテル心筋焼灼術に加えて植え込み型除細動器移植術の適応を考慮します。

徐脈性不整脈に対しては心拍数をほど良く調節できる薬物がなく、心停止による眩暈、眼前暗黒感や失神などの脳虚血症状、易疲労感、息切れ、呼吸苦などの心不全症状が出現すれば永久的ペースメーカー移植術の適応を考慮します。なお、植え込み型除細動器や永久的ペースメーカー移植術後は生涯にわたり定期的な専門外来の受診が必須となり、バッテリー消耗や医療機器の不具合などがあれば再度の入院治療も必要となってきます。

おわりに、不整脈発症の引金には不眠、ストレス、疲労、過度の飲酒や喫煙、刺激物（カフェインなど）の摂取、薬品などが関連しており、日常における生活指導で自覚症状が改善される場合もあります。日常動作が不可能となる動悸、冷汗や胸痛を伴う動悸、意識消失を伴う動悸などは要注意と考えられ、早めに循環器専門医へ相談下さい。

岩手医科大学震災募金のご案内

東日本大地震・大津波大災害に際し、被災により学業継続が難しい学生に対する経済的支援や今後年単位で続く事が予想される被災地への地域医療支援のための資金、大学の教育施設の被災復興を目的として、岩手医科大学震災募金活動を行っております。

皆様からのご協力をいただきますようお願い申し上げます。

なお、手続き方法等については企画部企画課 支援受付担当までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

岩手医科大学企画部企画課 支援受付担当

〒020-8505 岩手県盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111（内線 7022・7023）

FAX 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

